

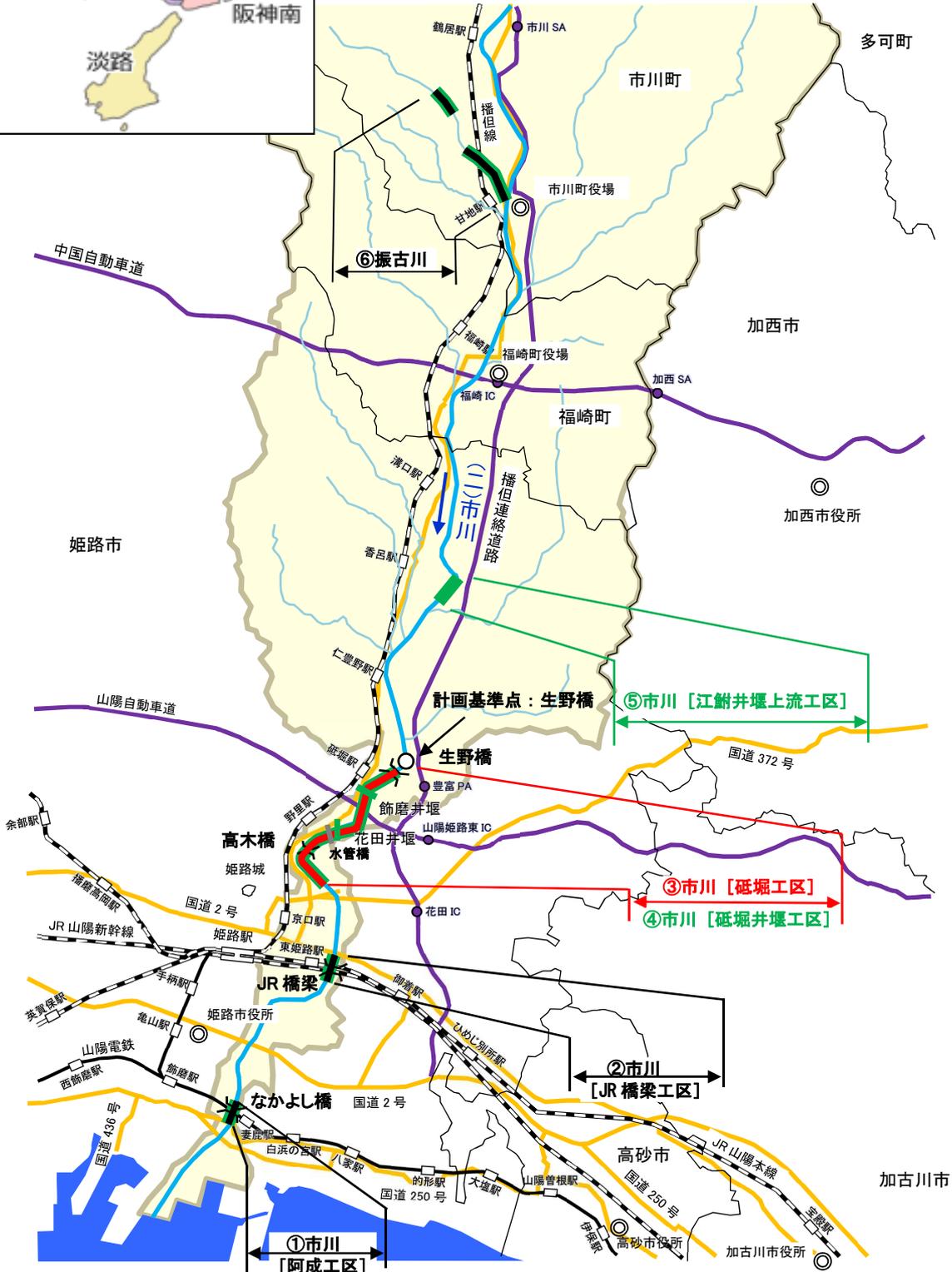
令和6年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	土木部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 福永 悦男 (河川・武庫川整備班主幹 寺田 悟)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	水系名	市川水系		
事業目的					
市川水系において、平成22年(2010)3月に策定した河川整備計画に基づき、洪水対策を実施することにより、治水安全度を向上させ、地域住民の安全・安心を確保する。					
市川河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					
本川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
①	市川【阿成工区】 <small>あなせ</small>	0.6km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を流下	H28(2016) 完了	—
②	市川【JR橋梁工区】	0.6km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を流下	H29(2017) 完了	—
③	市川【砥堀工区】 <small>とほり</small>	3.0km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を流下	事業中	R1(2019) 再評価
④	市川【砥堀井堰工区】 <small>とほり</small>	3.0km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を流下	未着手	—
⑤	市川【江鮒井堰上流工区】 <small>えふな</small>	0.9km	概ね30年に1回程度の降雨による洪水を流下	未着手	—
支川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
⑥	振古川 <small>ふるこ</small>	2.0km	概ね10年に1回程度の降雨による洪水を安全に流下	H26(2014) 完了	事業評価 対象外

市川水系市川 河川整備計画 全体位置図



- 凡例
- : 整備済み区間
 - : 事業中の区間
 - : 河川整備計画において
計画的に整備を進める区間

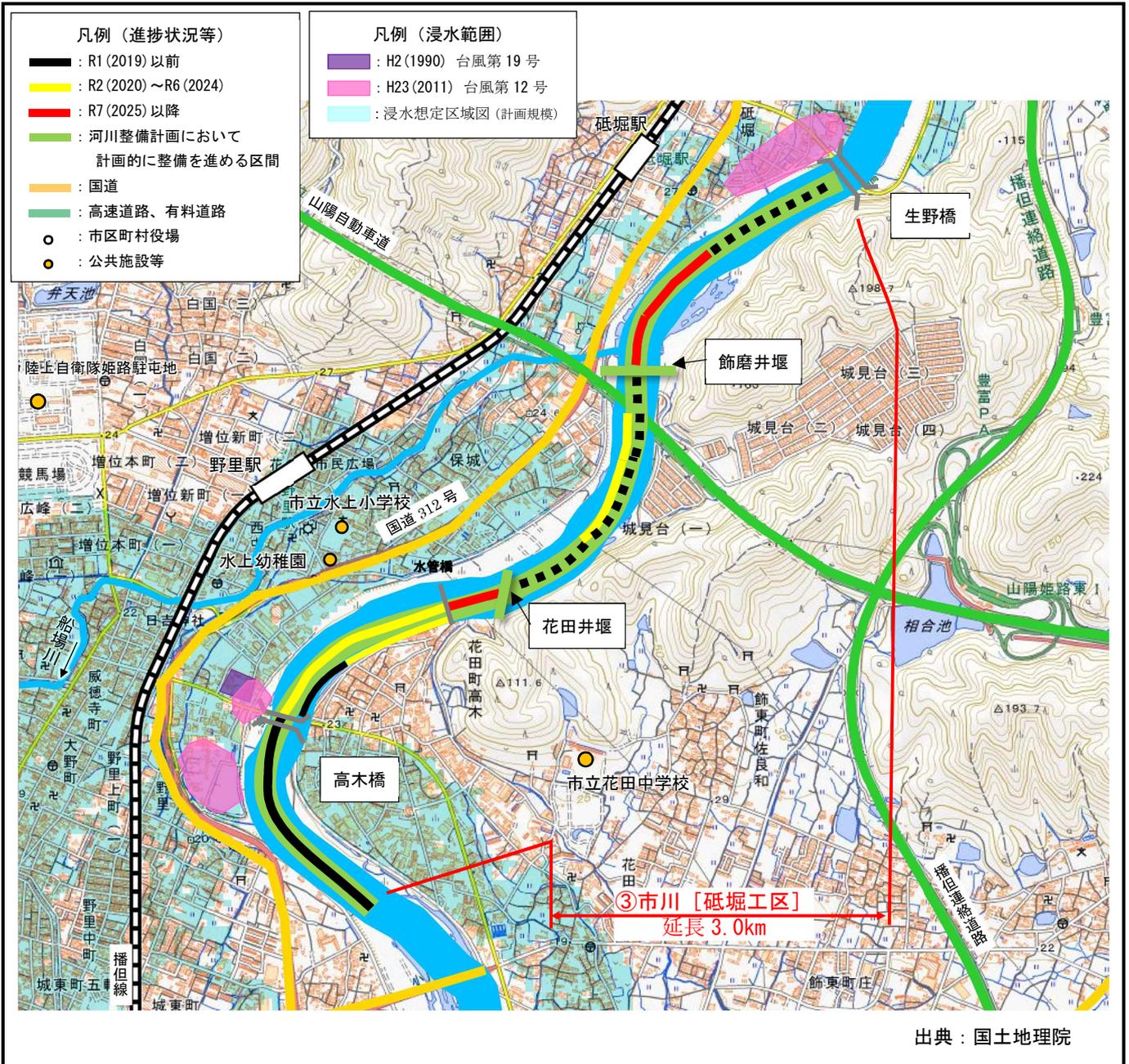


【市川水系】

事業概要および進捗状況			今回評価内容 () : 前回評価時点				
工区	事業区間	整備内容		全体事業費	進捗率	残事業費	完成予定年度
③ 市川 【砥堀工区】	砥堀工区 (姫路市砥堀)	河道改修3.0km 【負担割合】 国:50% 県:50%	事業費	40億円 (36億円)	63% (39%)	15億円 (22億円)	R9 (R6)
			内用補	1億円 (1億円)	100% (0%)	0 (1億円)	

事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。	
	【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、事業費および事業期間を変更する。(4億増、3年延伸) [事業費] ・労務単価等の上昇及び材料単価高騰に伴う増額 [事業期間] ・地下水の影響を考慮した河床掘削工事の進捗調整に伴う事業期間の延伸	
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 高木橋上流左岸の護岸整備が令和3年度に完了 花田井堰下流水管橋より下流の河床掘削が令和4年度に完了 山陽道下流右岸の護岸整備が令和6年度に完了 	
評価視点	評価結果の説明	
審査会意見及び対応方針 (R元年度再評価)	【審査会意見】(継続妥当) 意見なし	【対応方針】 —
(1) 必要性	<p>市川流域では昭和38年、平成2年、平成23年などに発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する要望も強い。</p> <p>【主な浸水被害実績*】 ※市川流域全体の被害戸数</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和38年梅雨前線 [浸水家屋2,179戸] 平成2年台風第19号 [浸水家屋1,174戸] 平成23年台風第12号 [浸水家屋339戸] (避難勧告約10万人) 	
(2) 有効性 ・ 効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比：B/C=21.1 (河川整備計画における全ての事業による費用便益比) 河川整備基本方針は平成21年3月、河川整備計画は平成22年3月に策定済。 整備計画目標規模の洪水発生時には約45,750人、約1,519haの被害が想定されており、河川改修に対する関心は高く、早期改修の要望が挙がっている。 	
(3) 環境適合性	・ 滞筋の保全により、多様な生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。	
(4) 優先性	・ 事業区間には人家連担区域が含まれており、流下能力不足による大きな浸水被害が想定されることから、早期に整備する必要がある。	
の再 結果 評価	継続	左の理由 事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

市川水系市川【砥堀工区】 整備概要図

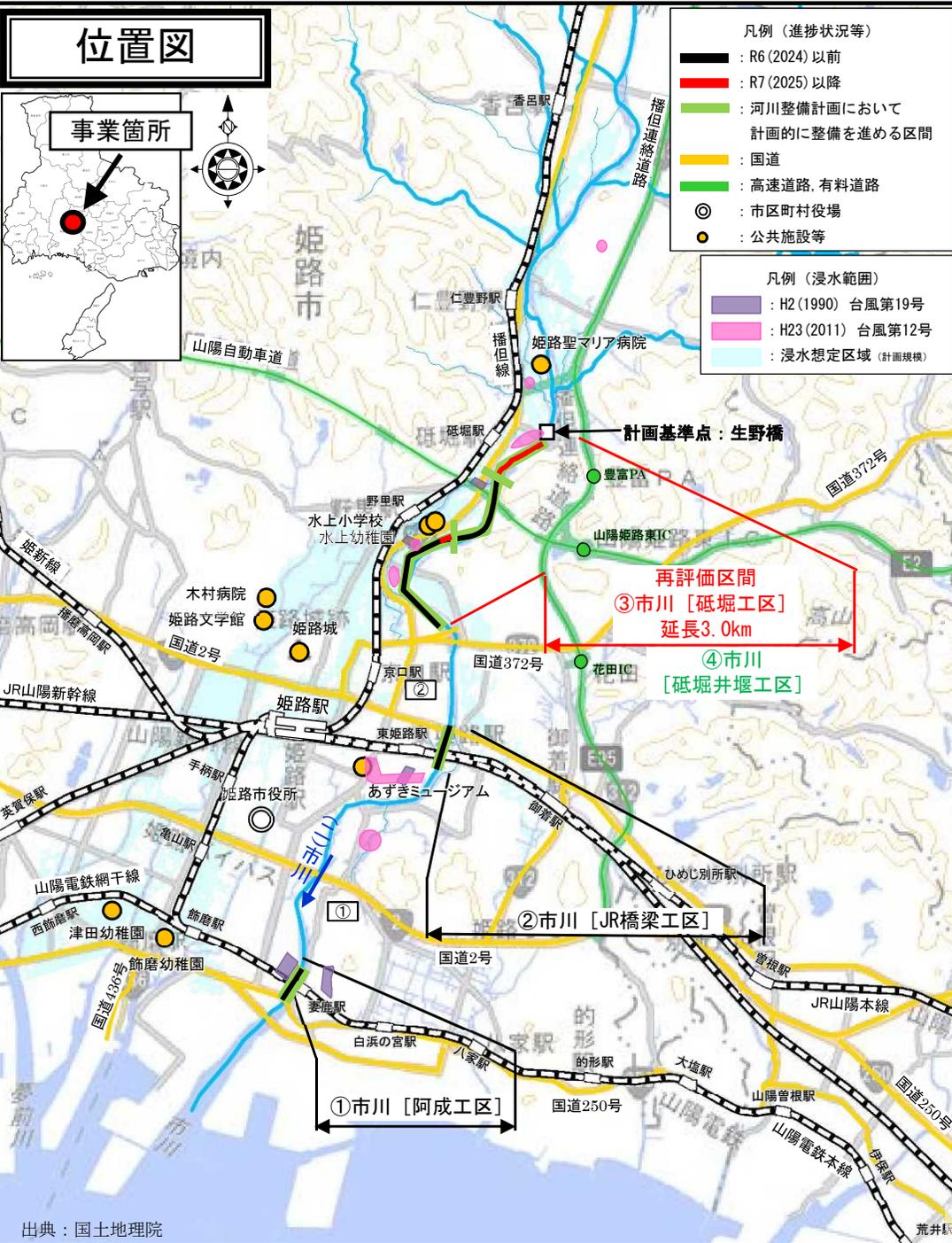


工区	河川整備計画全体	前回評価まで	前回評価から R6 (2024) まで	今後5年間 R7 (2025) ~R11 (2029)
③市川【砥堀工区】	H26~R9 年度 【事業費=40 億円】 ・整備延長 L=3,000m ・整備概要 護岸、築堤、掘削	H26~R1 年度 【事業費=15 億円】 ・護岸、掘削	R2~R6 年度 【事業費=15 億円】 ・護岸、築堤、掘削	R7~R9 年度 【事業費=10 億円】 ・掘削
		流下能力の向上	流下能力の向上	流下能力の向上

河川事業 二級河川市川水系市川(砥堀工区) (継続:再評価〔第3回〕)

位置図

事業箇所



目的

市川水系の河川整備計画(H22.3)に基づき治水安全度を向上(概ね30年に1回程度の降雨による洪水を流下させる。)

事業概要

事業区間: 姫路市砥堀
 総事業費: 40億円
 内用地補償費: 2億円
 事業期間: H26年(2014)~R9年(2027)
 事業概要: 河道改修(護岸、築堤、河床掘削)
 延長: 3,000m
 費用便益比B/C: 21.1 (※河川整備計画における全ての事業による費用便益比)

浸水実績

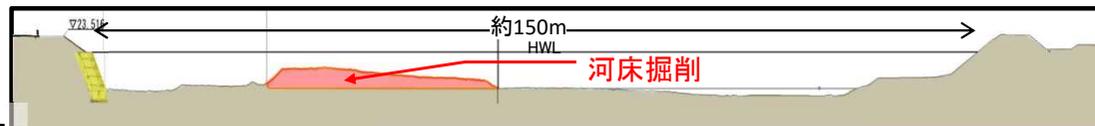
①浸水実績 (S38年梅雨前線)



②浸水実績 (H23台風第12号)



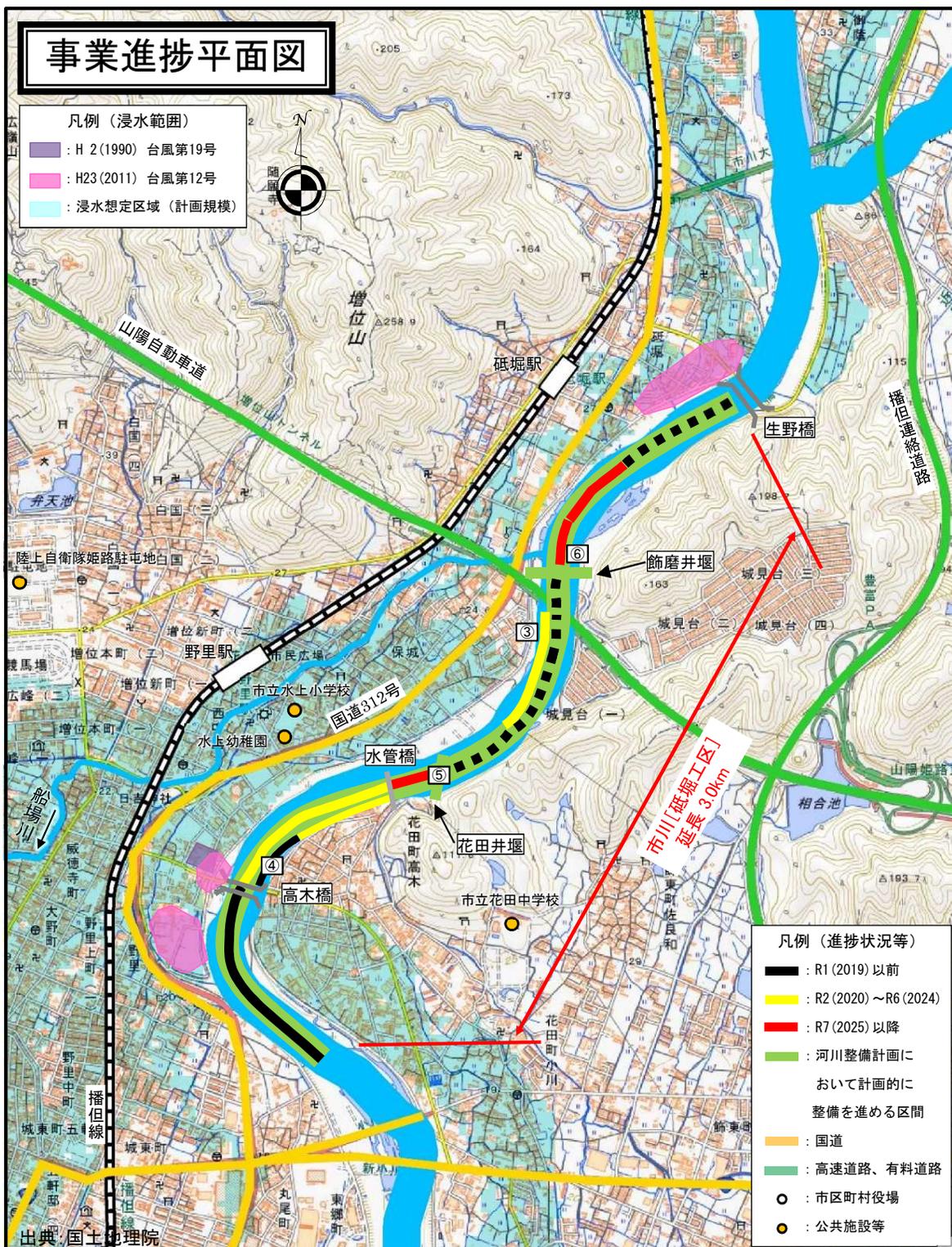
横断図(高木橋付近)



事業進捗平面図

凡例（浸水範囲）

- : H 2(1990) 台風第19号
- : H23(2011) 台風第12号
- : 浸水想定区域（計画規模）



現況写真

③完成区間 (山陽道下流右岸)



④完成区間 (高木橋上流左岸)



⑤残事業区間(花田井堰下流)



⑥残事業区間(飾磨井堰上流)



工程表

- : 前回計画
- : 実施・計画

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
砥堀工区	(前計画)													
	(実施・計画)													

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

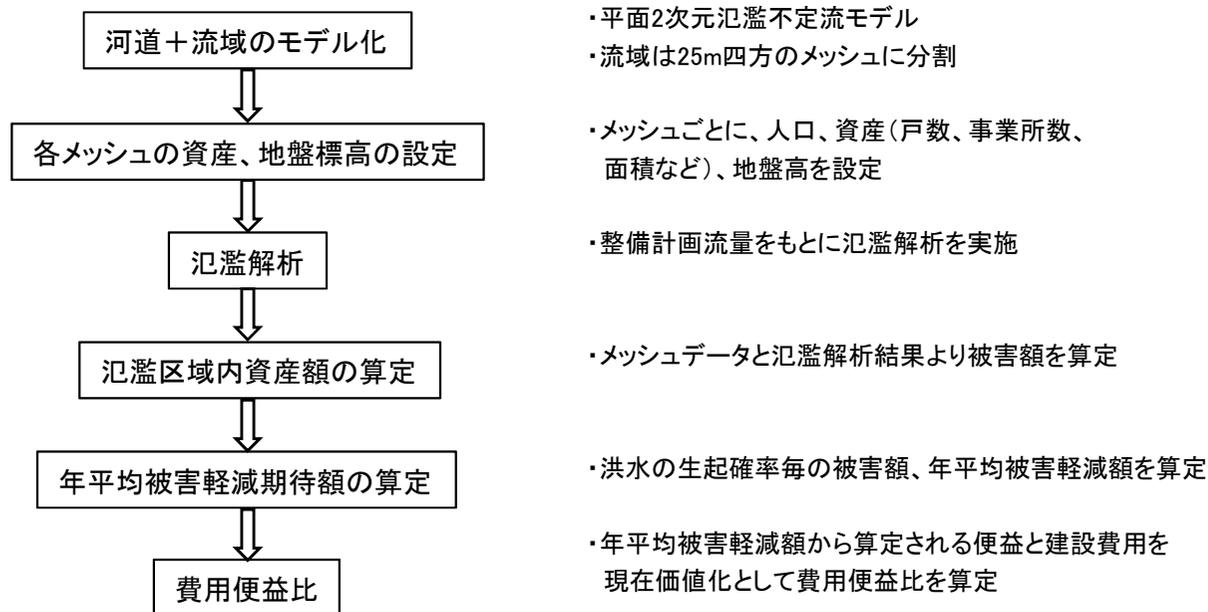
① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用

1) 便益 = 「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

$$\text{被害額} = \text{一般資産被害} + \text{農作物被害} + \text{公共土木施設等被害} + \text{営業停止被害} + \text{応急対策費用}$$

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



② 費用便益費(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
4,808億円	計画規模の降雨に対して、浸水面積1,519ha、浸水18,940世帯の解消	228億円	205億円	23億円	21.1

※河川整備計画における全ての事業による費用便益比

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○ <ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水区域内62,202人の解消 ・ 災害時要援護者数：21,509人の解消 ・ 最大孤立者16,867人の解消
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○ <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の交通途絶による波及効果の解消 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道250号（交通量11,985台/日） ・ 国道312号（交通量34,846台/日） ・ 主要地方道姫路港線（交通量19,293台/日） ・ 鉄道の交通途絶による波及効果の解消 <ul style="list-style-type: none"> ・ JR山陽本線（平均利用者数52,721人/日） ・ JR播但線（平均利用者数43,739人/日） ・ JR姫新線（平均利用者数26,853人/日） ・ 山陽電鉄本線（平均利用者数41,100人/日） ・ 山陽電鉄網干線（平均利用者数4,705人/日）
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	○ <ul style="list-style-type: none"> ・ 機能低下する施設等の解消 <ul style="list-style-type: none"> ・ 木村病院、飾磨幼稚園、津田幼稚園、水上幼稚園
	水害廃棄物の発生の軽減	○ <ul style="list-style-type: none"> ・ 水害廃棄物43,887t、処理費用1,229百万円の解消

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	毎年、市川改修促進期成同盟会、西播磨市町長会より改修促進の要望がある。
-------	-------------------------------------

参考：事業の変遷

昭和25年：都市基幹河川改修事業（中小河川改修事業）着手
昭和41年：市川総合開発事業（生野ダム）着手
昭和56年：河川局部改良事業着手
平成22年：河川整備計画策定
平成26年：投資事業評価（再評価[第1回]）
令和元年：投資事業評価（再評価[第2回]）